

# 加美町新庁舎建設 実施設計業務

## 実施設計書

- 概要版 -

東北設計計画研究所・E.I.S設備計画 設計共同企業体

2026年3月

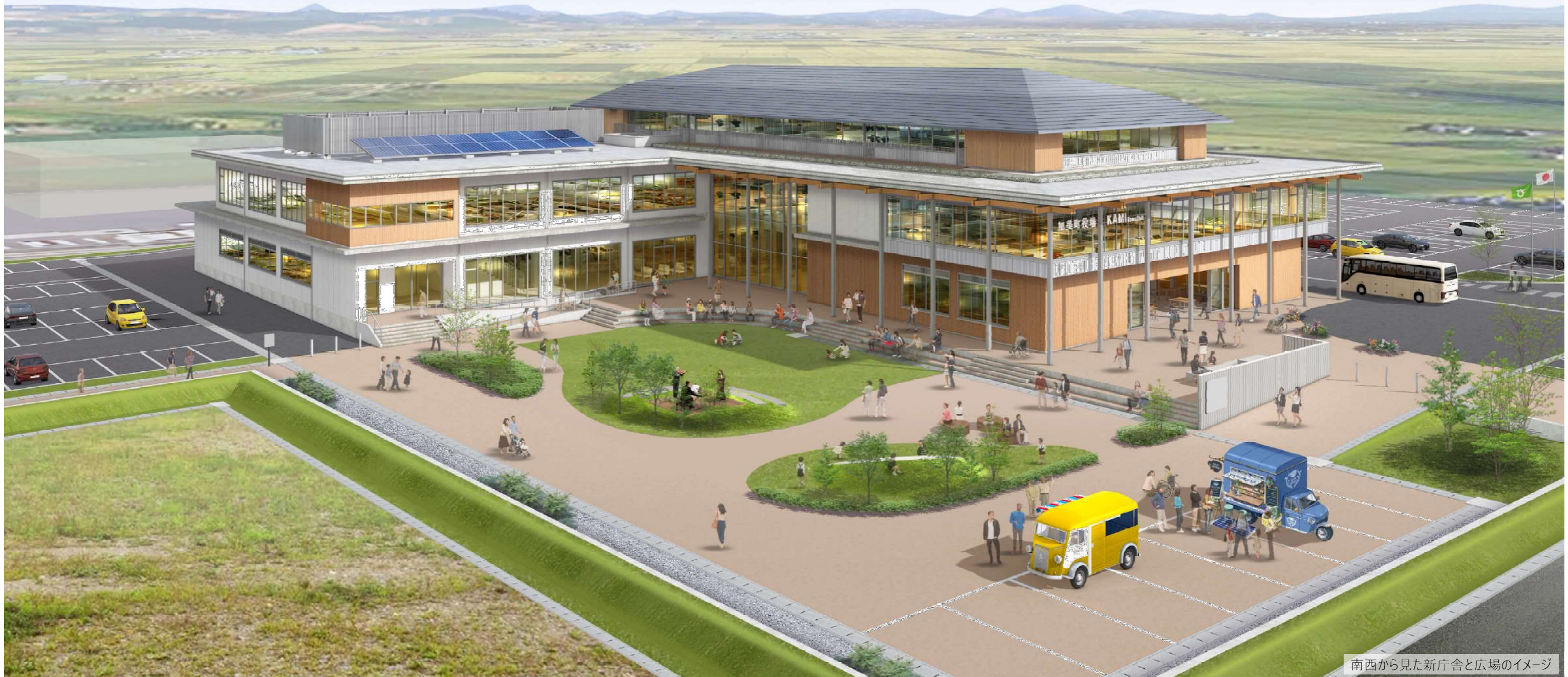
### 目次

建物概要(外観パース1~2)	01~02
(内観パース1~3)	03~05
設計方針	06
計画概要	07
配置図	08
平面図-1	09
平面図-2	10
立面図	11
断面図	12
環境計画(省エネ計画)	13

## 町をつなぐ拠点ホール - 新庁舎 -

西に町のシンボル・薬菜山、東に水田の風景が広がる敷地は、加美町の東玄関口に位置し、庁舎は水田に大屋根が浮かぶ、町のシンボルゲートとなることを目指します。

大屋根と大庇が建物と人々をやさしく包み込み、建物を様々な自然環境から守るとともに、人々をやさしく迎え入れます。風土に根ざした加美町らしい庁舎は、各地域と山里の集落をつなぐ、みんなの拠点として、町民と行政がともに歩む、まちづくりの拠点として、これからの時代を見据えます。



南西から見た新庁舎と広場のイメージ



南東から見た新庁舎のイメージ



1階窓口のイメージ



1階共用スペース(集いの庭)のイメージ



3階議場のイメージ



concept 01

### 風土に根ざした加美町らしい庁舎

- 敷地は町の東に位置し、西の薬菜山をシンボルに美しい山並みを望み、東には豊かな水田の風景がひろがります。新庁舎は東の玄関口に構えるゲートとして位置づけるとともに、西にひろがる町を見渡します。各地域のコミュニティをつなぐネットワーク自治の拠点ホールとして、加美町らしい、これからの庁舎をつくります。
- 建物により、加美町特有のつよい西風を遮り、東にメインエントランス、車寄せ、駐車場を設け、南西の広場を介し、町とつながる庁舎とします。建物の南には広場に面し、町民が気軽に利用可能な共用スペースを設けます。
- 町の伝統や文化を大切に、屋根が織り成す風景や山並みと調和する「大屋根」と周囲の「大庇＝裳階※」が建物をやさしく包み込み、日射を抑制し、風雨（雪）から建物を守ります。

※裳階（もこし）：仏堂や塔（五重塔）などで、軒下に設けられた庇状の屋根。屋根の下にもう一重屋根をかけることで風雨（雪）から建物を守るとともに、外観に優美さをもたらす。

concept 02

### 災害につよく、職員が働きやすい庁舎

- 耐震性能を高めた堅固な構造と災害時用の設備を備えた防災拠点は太陽光発電などの自然エネルギー利用、自家発電設備により災害時に持続可能な庁舎とします。
- 鉄骨造により、建物の軽量化を図りつつ、軟弱地盤において信頼性のある杭工法を選定し、支持層を確実に捉え、安心安全な庁舎を実現します。
- 自然の採光、通風を利用したパッシブデザインや建物の高断熱化、高効率機器の採用など、省エネ性能を高め、ZEB Ready※を取得し、環境への配慮とランニングコストの削減を図ります。
- 職員が働きやすいゆとりのある執務スペースは部署間の連携や会議、相談などの機能を充実させます。
- 時代による庁舎の役割や働き方の変化、町民との協働など、多様な状況に対応し、多機能に利用可能な空間を備えたフレキシブルな執務空間とします。

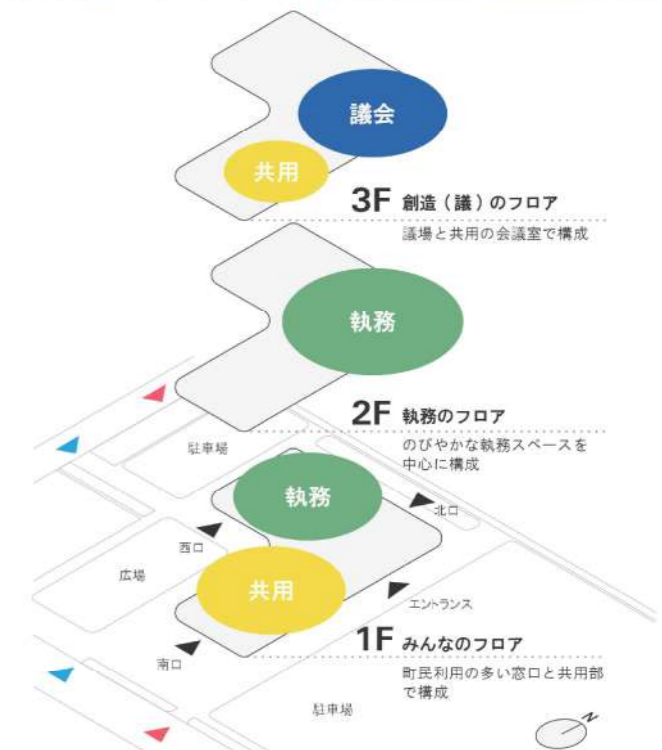
※ZEB Ready：建物の基準一次エネルギー消費量から50%以上のエネルギー消費量削減に適合した建築物。

concept 03

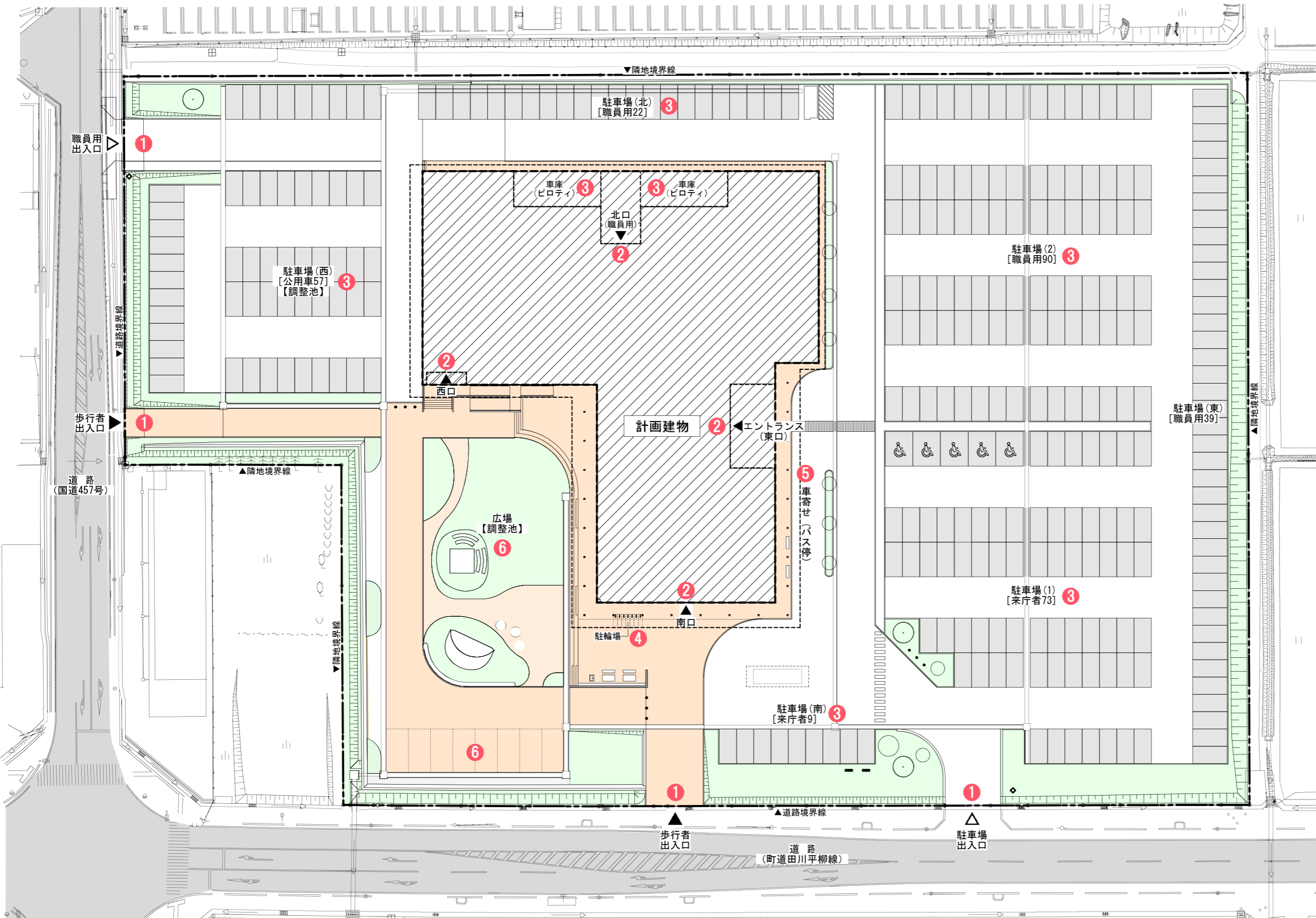
### まちをつなぎ、町民とともに歩む庁舎

- 各地域のコミュニティを大切にしつつ、地域の拠点に対して、新庁舎は各地域をつなぎ、行政と町民をつなぐ「町の拠点」とします。
- だれもが利用しやすいユニバーサルデザインによるバリアフリー対応、わかりやすいサイン計画、窓口のプライバシーや相談対応に配慮したみんなにやさしい庁舎とします。
- ワークショップなどの対話から、交流・子育て、情報観光、地域活性などをキーワードに町民の多様な活動に対応し、町を盛り上げ、交流を促進する集いの場をつくります。
- みんなが利用可能な共用スペースをはじめ、共用の会議室やワークスペースを設け、人口減少社会における町民の行政参加、官民連携可能な地域共創型※の庁舎を目指します。

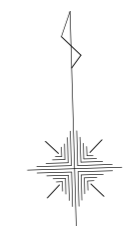
※地域共創：地域が抱える課題を解決し、理想の未来像を実現するため、住民や団体、企業などと協力し、地域を活性化していくことで、人口減少社会の課題を解決する方法とされている。

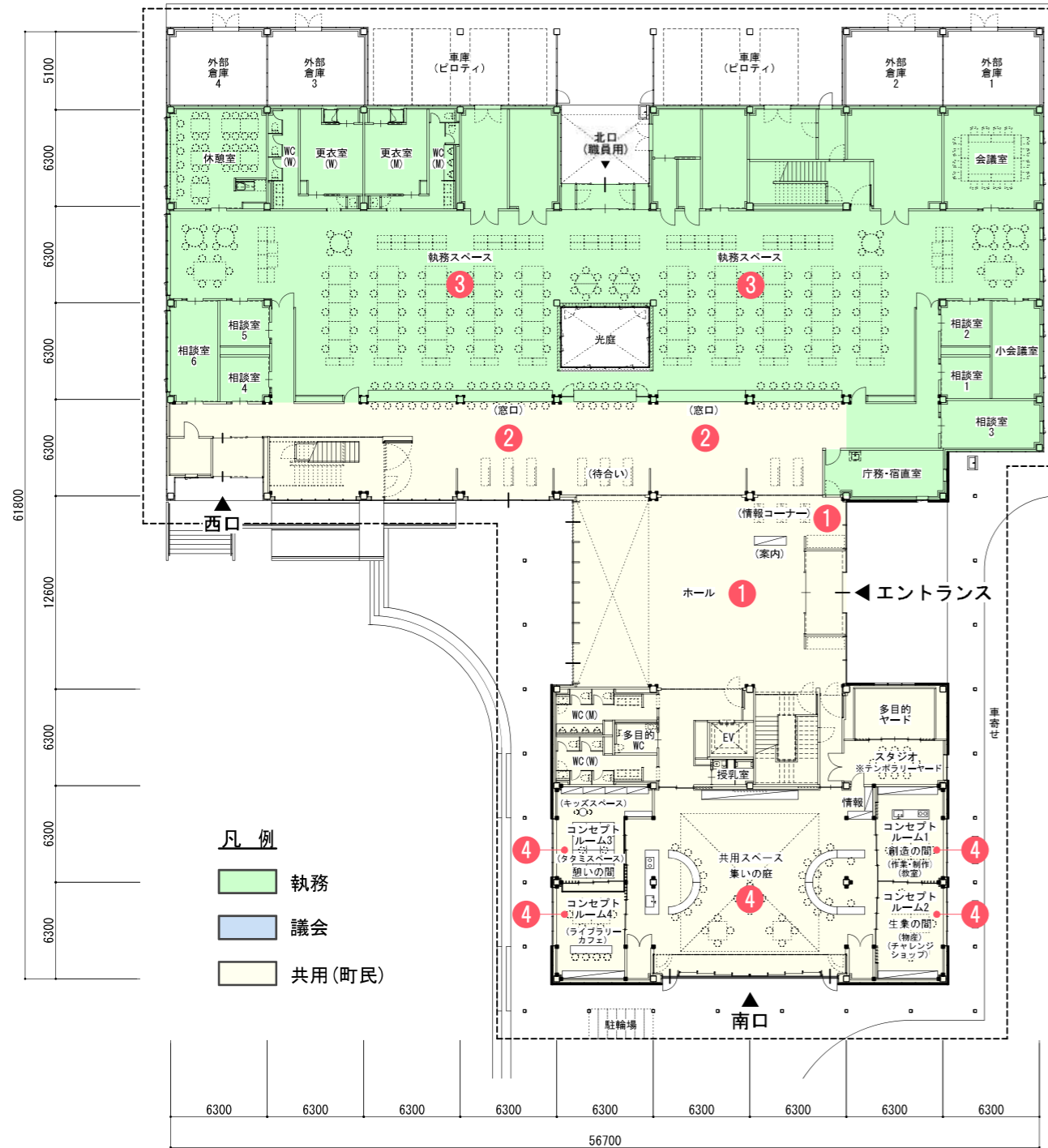






- 1 敷地出入口**  
 歩行者用に南の町道、西の国道、双方からアクセス可能な敷地出入口を設けます。  
 車両は来庁者用を南、職員用を西とし、安全で明快な利用区分を想定します。
- 2 建物出入口**  
 各方面からのアクセスに配慮し、利用者用に東口、西口、南口の3カ所の出入口を設け、北口は職員専用とします。  
 東口は来庁者用の駐車場に面し、建物により、つよい西風を避けたメインエントランス、南口は建物南の共用スペースに直接アクセスし、休日利用にも便利な出入口とします。
- 3 駐車場**  
 南東側を来庁者用とし、エントランスに近接した位置におもいやり駐車場(車いす用)を5台分確保します。  
 職員用、公用車の駐車場は西の敷地出入口、建物北口にアクセスしやすい位置に設け、建物北側ピロティには車庫を設けます。
- 4 駐輪場**  
 南の町道からアクセスしやすい南側の大庇下に駐輪場を設け、建物南の共用スペースも利用しやすい位置とします。
- 5 車寄せ・バス停**  
 建物東の大庇下に設け、西風や雨天時の乗降に配慮した利便性の高い車寄せ・バス停とします。
- 6 広場**  
 L型の建物に面して、南西側に設けた広場を調整池に利用し、敷地の有効活用を図り、町民が気軽に立ち寄れる憩いの場とするとともに、イベント時に利用します。  
 メンテナンス用に車両の乗入れを可能とし、イベント時はキッチンカーなどのスペース、冬季は除雪車や雪堆積場として利用します。





1階 -みんなのフロア-

① エントランスホール

東のエントランスから西の葉・山に抜ける開放的な空間。総合案内や情報コーナーを設けた情報発信の場とし、随時のイベントやギャラリーとして利用することも可能。

② 窓口・待合い

町民利用の多い部署をリニアに配置した利用しやすい窓口。窓口カウンターにはプライバシー用の隔て、東西には相談室を配置し、町民対応の充実を図ります。

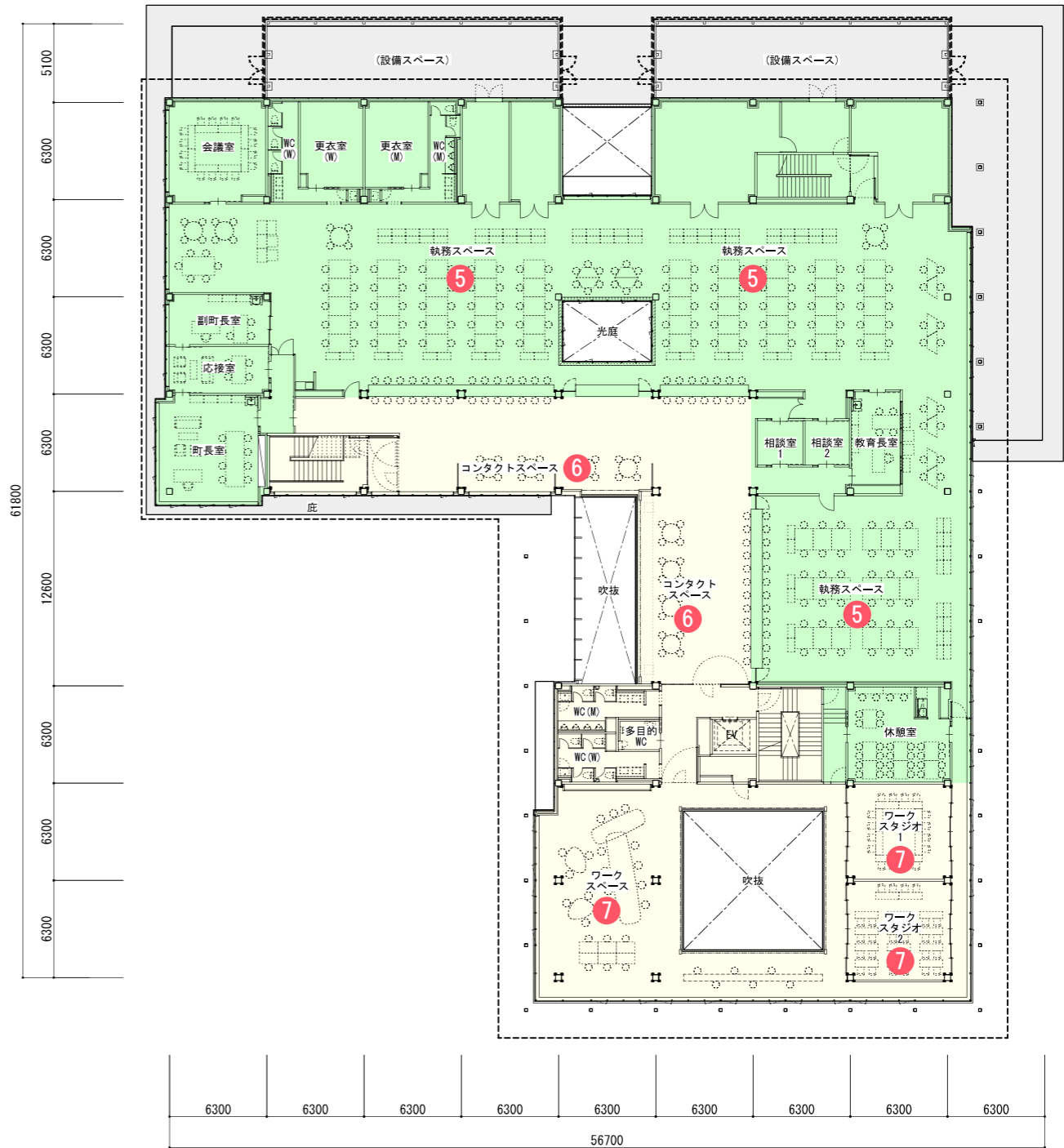
③ 執務スペース（1階）

部署の特性を考慮したゾーニングにより、バランスのよい空間構成とし、気軽に打合せや交流が図れるマグネットスペースをバランスよく配置します。職員の利用に配慮し、執務スペース内に会議室や倉庫、WCなどのバックヤードを設け、内部廊下、階段により、部署間の連携、上下階の移動を容易にします。執務スペースの出入口はカードキーにより管理し、プライバシーやセキュリティを確保します。

④ 共用スペース（集いの庭・コンセプトルーム）

町民と職員がともに利用する共用スペース。情報発信やイベントの開催など、様々な活動に対応し、みんなが気軽に集える交流の場とします。コンセプトルームは交流・子育て・観光・物産・創作などをキーワードに、それぞれの特性に応じた活動を通し、賑わいと交流を生み出し、町の発展に寄与する創造の場とします。職員や役場業務での利用を通して、町民と行政の活動が混ざり合い、新たな価値を創造していく、これからの時代の庁舎において象徴的な空間を目指します。

2階 -執務のフロア-



⑤ 執務スペース（2階）

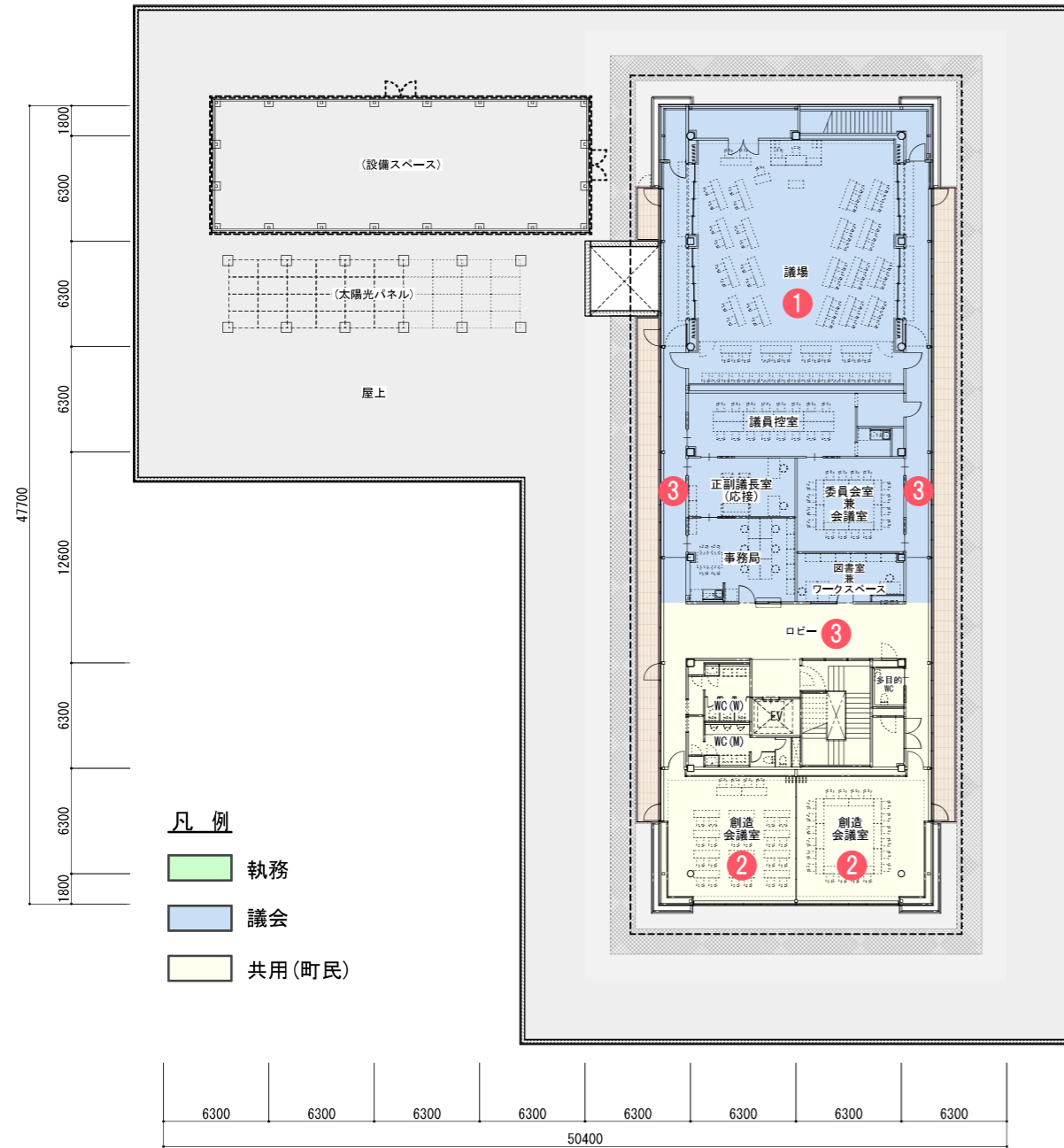
専門性の高い部署を配置し、L型平面を3つのグループにゾーニングしたのびやかな執務空間。

⑥ コンタクトスペース

打合せや相談の他、待合いにも利用可能なスペース。

⑦ ワークスペース・ワークスタジオ

働き方や部署に捉われない、共用の執務スペース。町民との連携、共創の場となっていくことを目指した空間。



3階 -創造(議)のフロア-

1 議会スペース

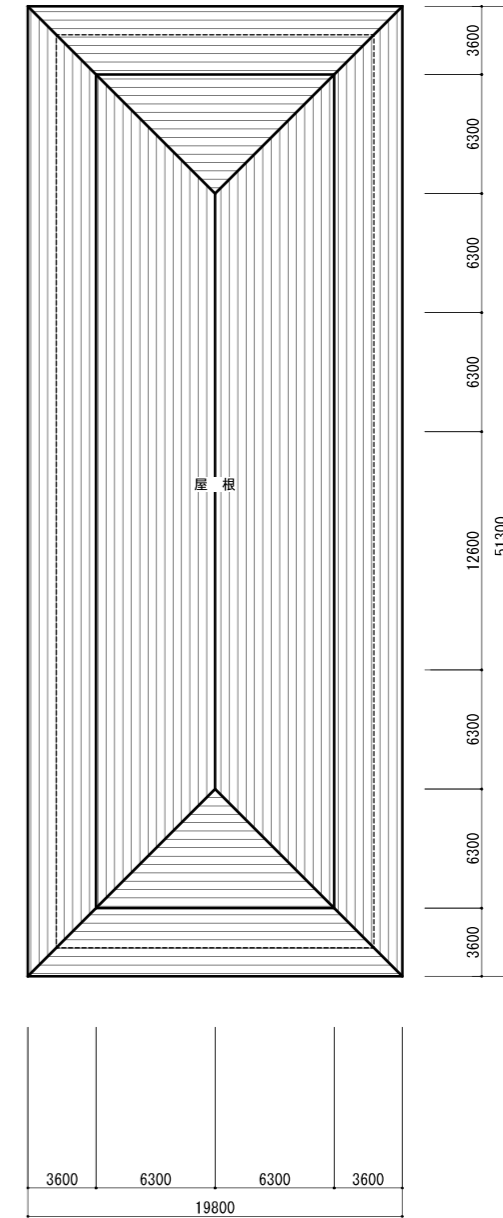
眺望のよい3階に設け、議場や委員会室、事務局などで構成し、北側の階段は1, 2階の執務スペースとつながり、議会開催時に利便性の高い構成とします。  
議場は大屋根の木構造と内装材に町産木材を使用し、品格とぬくもりのある特徴的な空間とします。

2 創造会議室

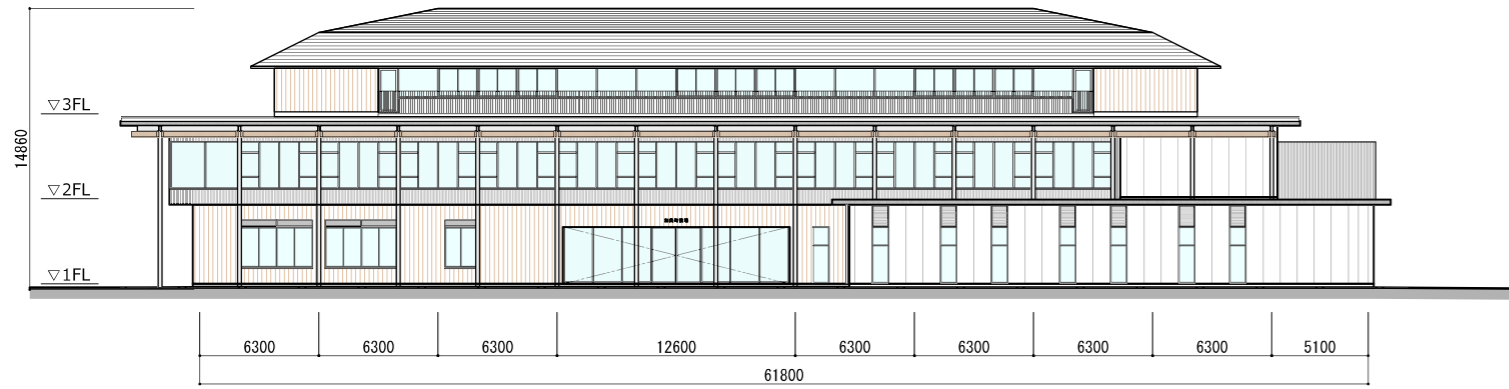
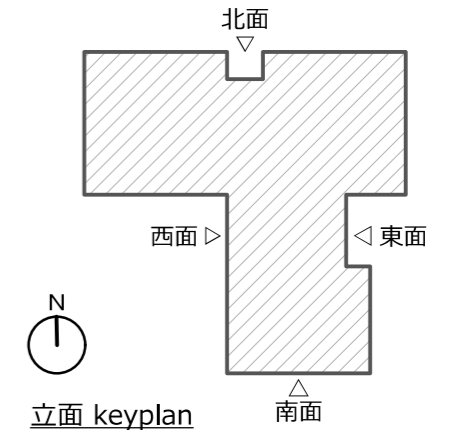
役場、議会、町民が共用で利用可能な会議室、町の未来を創造する議の場とします。  
可動間仕切りにより、分割や一体利用を可能とし、災害時の設備を備えた防災拠点となります。

3 回廊(廊下)

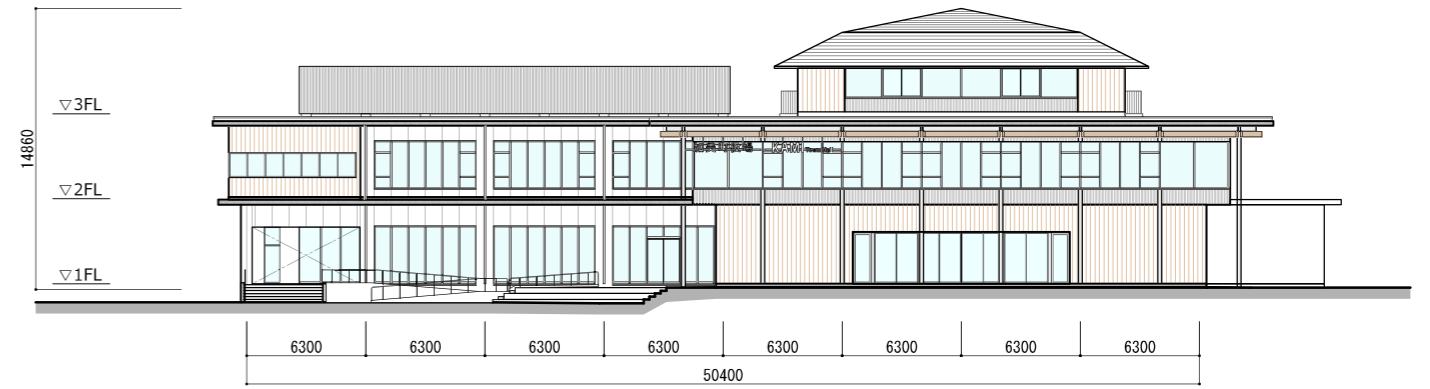
回廊型の廊下からは加美町の美しい風景を望みます。



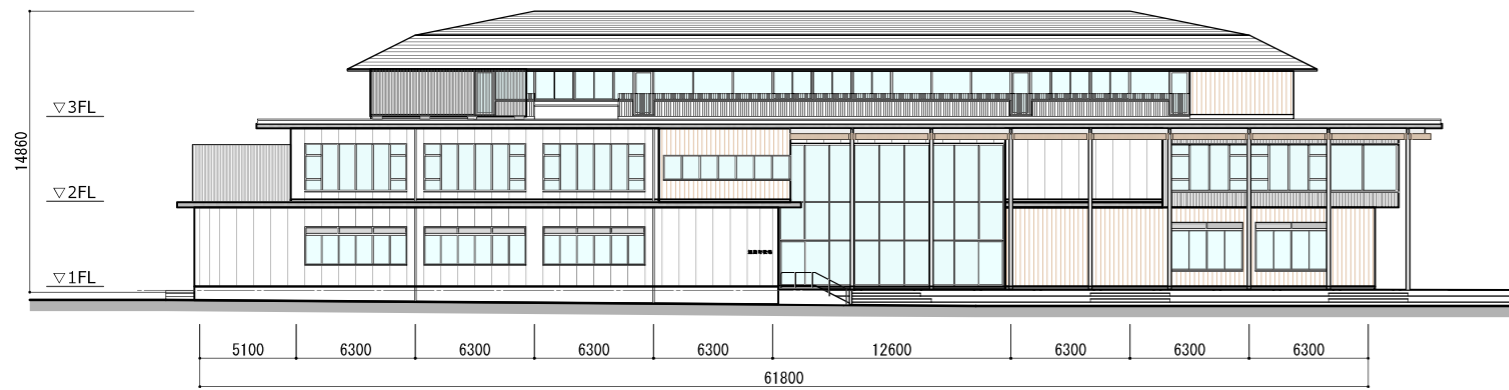
屋根伏図



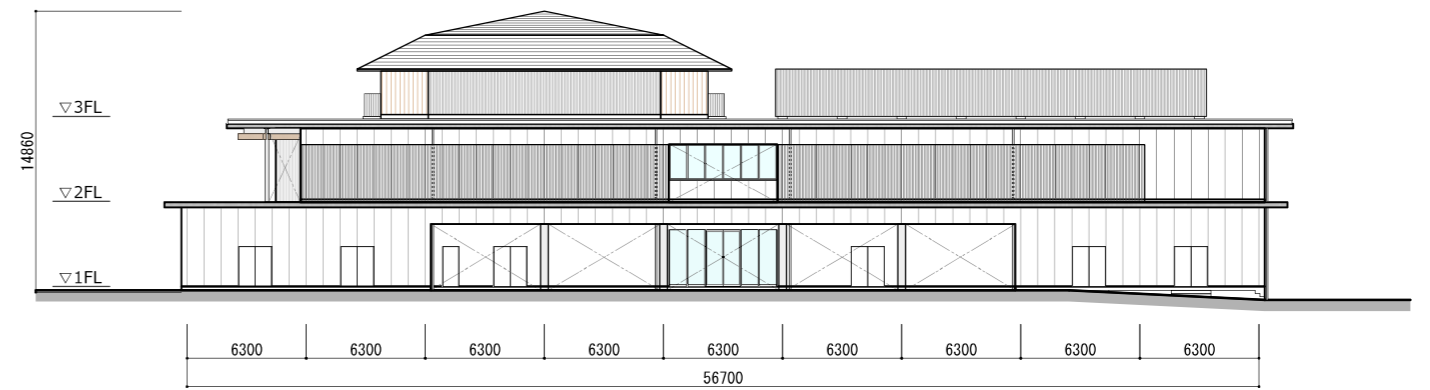
東立面图



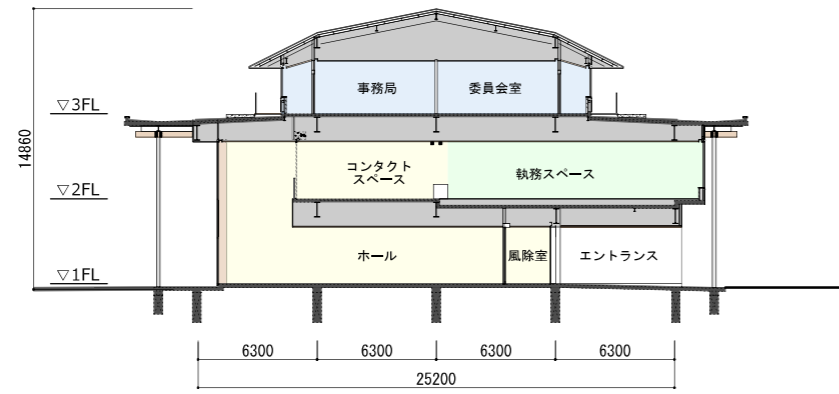
南立面图



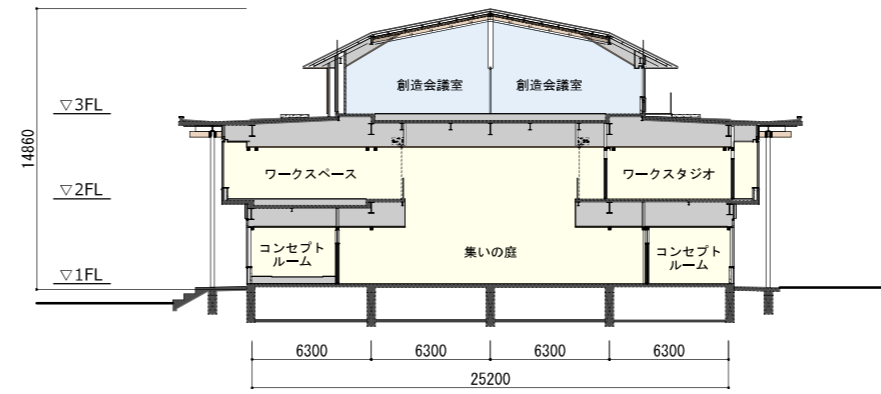
西立面图



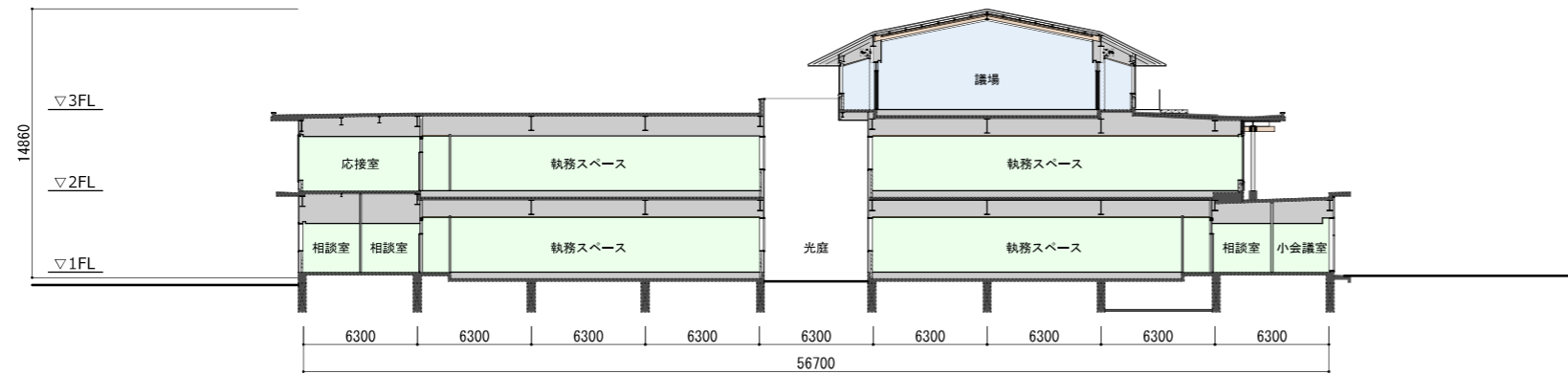
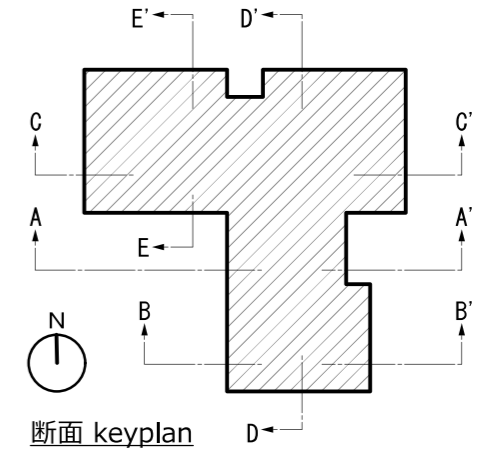
北立面图



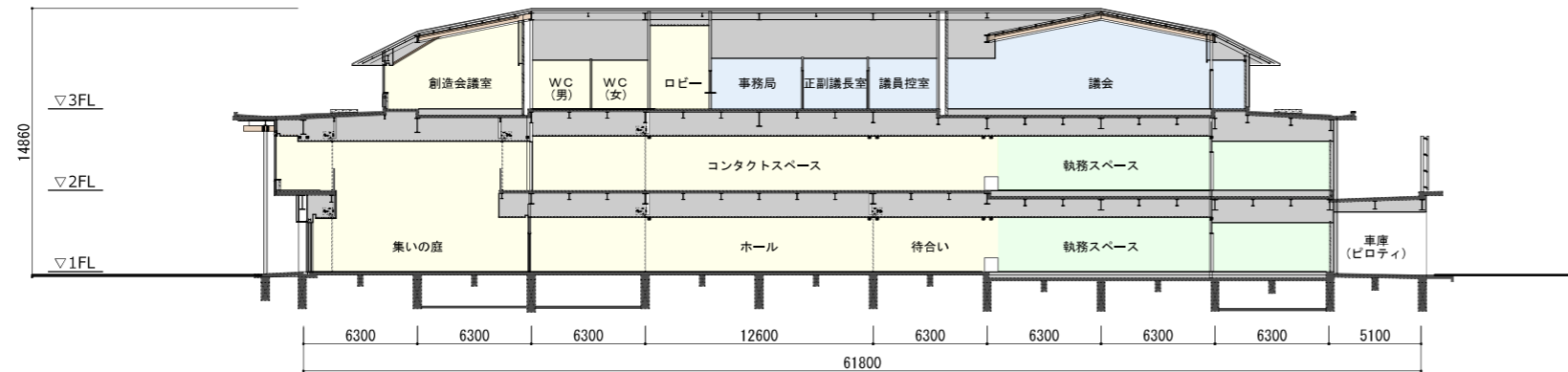
A-A' 断面図



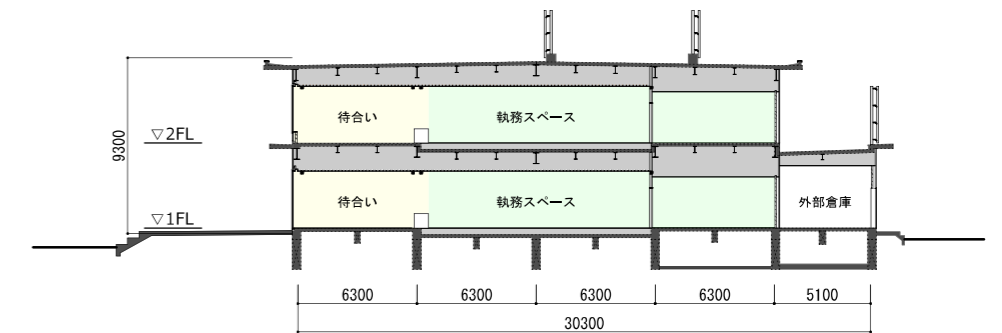
B-B' 断面図



C-C' 断面図



D-D' 断面図



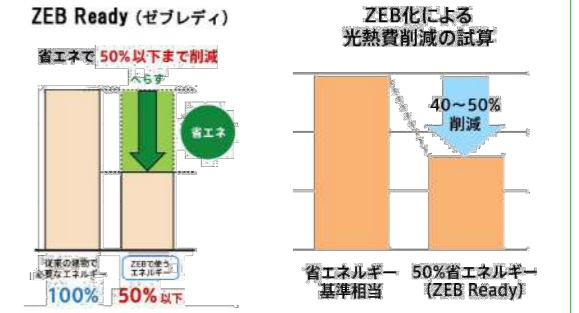
E-E' 断面図

自然エネルギー活用と省エネ設備による環境にやさしい庁舎

周囲の庇が建物を包み込み、自然採光を取り込みつつ、日射をコントロールし、紫外線や風雨(風雪)から外壁を保護します。屋根は高耐候の勾配屋根、太陽光や設備機器置き場となる屋上部分は高耐久の防水に保護材を敷込み、積雪・凍害に配慮するとともに、周囲の庇により、落雪を防ぎます。  
窓から自然の通風を取り込み、吹抜けや光庭を介した風の道により、快適な室内環境を実現します。  
外皮(屋根・外壁・建具・床)の断熱性を高め、設備は高効率の省エネ機器に自動制御を加え、ランニングコスト縮減と環境負荷に配慮します。

ZEB Ready の取得

※ZEBとは、Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称で「ゼブ」と呼びます。  
快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のことです。  
新庁舎は、再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量削減に適合した建築物＝「ZEBReady」を取得します。



電力 発電設備

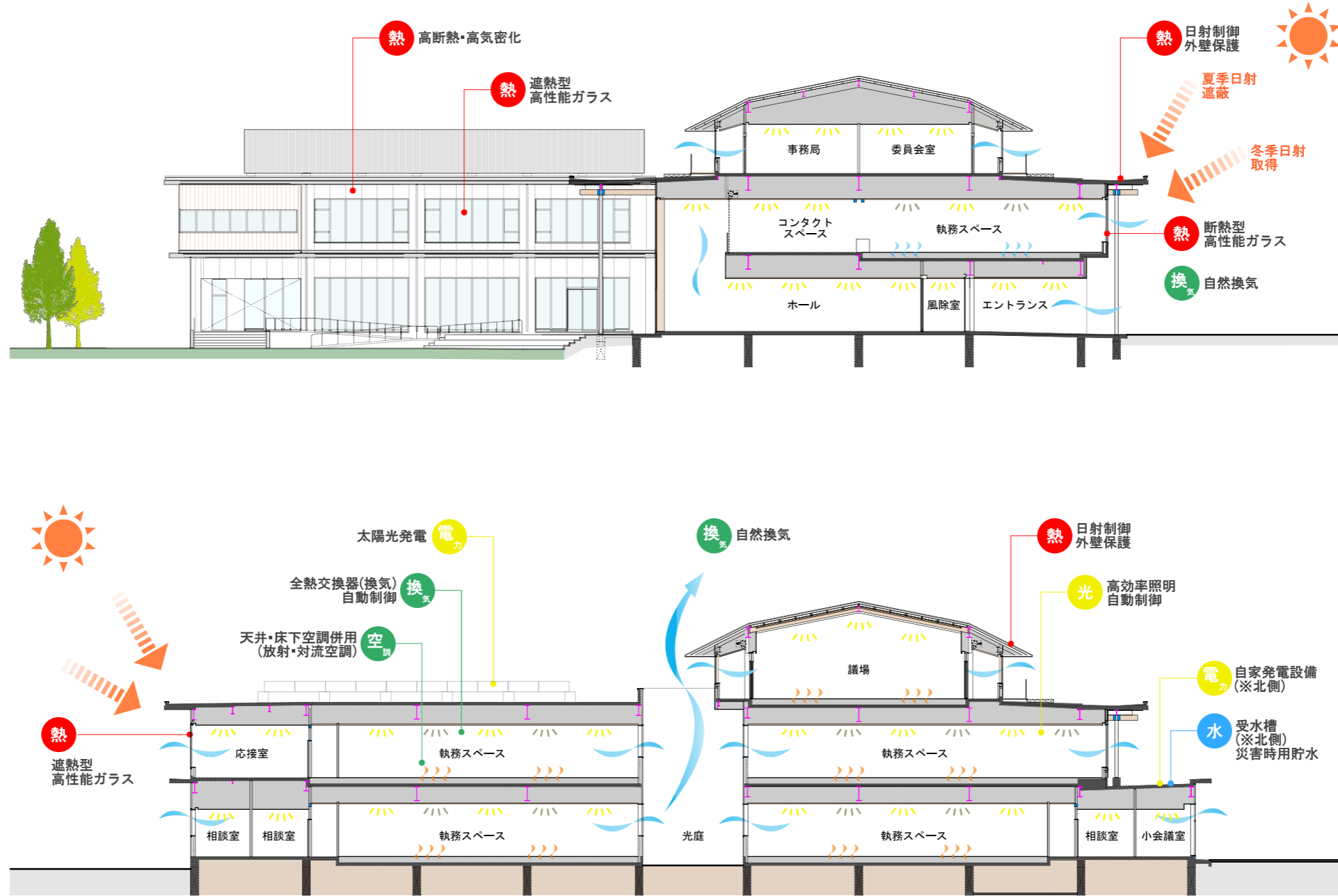
- 屋上に太陽光発電パネルを設け、電力を常時利用しつつ、災害時にも活用します。
- 自家発電設備は浸水被害を考慮し、2階屋上に設け、災害時の事業継続を可能とします。

換気 換気設備

- 執務室等の居室空間の換気には全熱交換器を採用し、外気と排気を熱交換させてから室内に取り入れることで、外気による空調負荷を低減します。
- 全熱交換機の運転はCO2センサーと連動し、室内の在室人員数に応じて換気量を自動的に制御することにより、空調負荷および消費電力を削減します。
- トイレや倉庫といった室の換気には省エネ型の換気扇を採用します。

空調 空気調和設備

- 庁舎内のフロア別・エリア別に空調エリアをゾーニングし、省エネ性能の高い電気式ヒートポンプマルチエアコンによる空調に、各室の負荷状況に応じて効率的な運転ができる制御を取り入れます。
- オープンな執務スペースの空調は、天井吹出しと床吹出し(床下吹込み)を併用し、対流と放射により、居住域の温熱環境を快適にします。



熱 建築仕様・断熱性能

- 外皮(屋根・外壁・床)は高性能の断熱材により、建物の断熱性を高め、冷暖房負荷の低減を図ります。
- 断熱・気密性の高い建具を採用し、ガラスはLow-e複層ガラスとすることにより、外部からの熱流入および熱流出を防ぎます。
- 庇により、日射をコントロールしつつ、ブラインドやカーテン等を効果的に配置し、日射負荷を抑制します。

光 照明設備

- 窓から自然採光を取り込み、照明には昼光センサーを設け、自動的に調光することにより、消費電力を抑制します。
- トイレや倉庫といった常時使用しない部屋には人感センサーを設け、消し忘れを防止します。

水 給水(給湯)設備

- 給水は受水槽加圧給水方式により、災害時に受水槽容量分の貯水が可能な計画とします。
- シャワー室の給湯にはエネルギー効率の優れたエコキュート(電気式ヒートポンプ給湯器)を採用します。
- トイレや湯沸室等の給湯には個別式電気温水器を設け、配管からの熱損失を最小限とすることで省エネ化を図ります。
- 衛生器具には自動水栓等、節水型器具を採用します。